

地域の中で輝く中高生の出番づくり

～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～

(提 言)

平成28年3月

岡山県社会教育委員の会議

目 次

はじめに	1
I 地域社会や教育をめぐる現状と課題	2
1 地域社会の現状と課題		
2 社会教育の現状と課題		
3 本県の地域と子どものかかわり		
4 日本の若者の自己認識		
II 本研究の視点	6
III 事例紹介・事例分析	9
【公民館での取組】		
・ 笠岡市陶山公民館	【ふれあいまちづくり納涼祭】	
・ 岡山市立上南公民館	【体験型講座「みんなあつまれ」】	
【中・高等学校での取組】		
・ 県立矢掛高等学校	【やかげ学】	
・ 赤磐市立高陽中学校	【小学校への出前講座】	
【市町村等での取組】		
・ 粟井春日歌舞伎保存会	【粟井春日歌舞伎】	
・ やかげ小中高子ども連合（YKG60）	【子どもが主体の地域活動】	
【大規模校での取組】		
・ 岡山市立竜操中学校	【赤田町内夏祭り】	
・ 県立倉敷南高等学校	【倉敷町衆プロジェクト】	
IV 研究をとおして	26
V 主体別の提言	27
1 公民館関係者へ向けて		
2 学校関係者へ向けて		
3 地域住民組織・NPO団体等へ向けて		
4 行政へ向けて		
おわりに	29
参 考	31
提言の概要		
岡山県社会教育委員の会議 審議過程		
岡山県社会教育委員の会議 委員名簿		

はじめに

現代社会においては、人口減少や高齢化、核家族化の進行、経済格差による国民生活の二極化や過疎・過密化による地域格差などを背景に、子どもや家庭、地域社会の在り方が急速に変化しています。このような状況の中、家庭や地域社会の教育力の低下が指摘される一方、それらの向上や再構築についての支援に関する取組が強く求められています。

岡山県の子どもをめぐる状況は、暴力行為などの問題行動や不登校が増え、学力面でも低下が見られるなど、教育環境は厳しいものがあります。

このような中、岡山県社会教育委員の会議（以下「会議」）では、平成24年度から25年度にかけて、「子どもが安心して学び成長できる環境づくり」の実現に向けて～組織づくりのプロセスに注目して～」を研究課題として設定し、成果をまとめました。これは、県内外の教育支援活動の事例分析を通じ、教育支援体制の構築から拡充のプロセスを研究したもので、今後、教育支援活動に初めて取り組もうとする学校や地域に対して、さらに支援内容の一層の充実・拡充を図ろうとする支援組織やNPO等団体に対してそのプロセスを示したものでした。

一方、この度の会議では、子どもの健やかな成長には、こうした地域から子ども（学校）への支援に加え、子ども（学校）から地域へ働きかける取組も大切であり、子どもが地域での役割や出番を持ち活躍することで、地域への愛着心や自己肯定感が高まり、岡山県の教育課題の解決の一助にもなると考え、研究課題を「地域の中で輝く中高生の出番づくり～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～」と設定しました。

この研究では、中高生の地域での出番や役割づくりを進めるためのポイントや効果について公民館、中・高等学校、市町村のNPO等団体にヒアリングを実施し、これらの担当者や中高生、地域の大人からの実際の声をもとに、活動の成果や課題等の事例分析を行うとともに、事業主体別に提言としてとりまとめました。

この提言の趣旨が十分に生かされ、より多くの大人が将来のパートナーとしての中高生の教育にかかわり、社会全体で子どもを育むための取組が進むとともに、取組を通して地域社会の大人がつながり、地域社会の教育力の向上や地域活性化が図られることを大いに期待しています。

岡山県社会教育委員の会議

議長 濱田 栄夫

I 地域社会や教育をめぐる現状と課題

1 地域社会の現状と課題

本県の人口は平成17（2005）年の約196万人をピークに減少し、平成22（2010）年の時点で約195万人になっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、平成52（2040）年には約161万人になると推計されており、年齢構成では、老年人口（65歳以上）の割合は年々拡大し、少年人口（14歳以下）の割合は逆に縮小しています。

このような人口減少、少子高齢化などの問題を克服し、持続的に発展するために、本県の「おかやま創生総合戦略」をはじめ、県内の各自治体においても将来の地域づくりの指針が策定されているところです。「おかやま創生総合戦略」には、少子化対策の推進、魅力ある郷土づくりの推進、経済力の確保、地域の活力の維持など総合的な対策が示されています。

2 社会教育の現状と課題

本県では、暴力行為などの問題行動や不登校が増え、学力面も低下が見られるなど、教育環境は厳しい状況にあります。県・県教育委員会においても、「岡山県教育大綱」「第2次岡山県教育振興基本計画」を策定し、魅力ある学校づくりの推進、学びのチャレンジ精神の育成、家庭・地域社会の教育力の向上、規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成、生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興を基本方針に教育県岡山の復活を目指しています。

地域社会においては、都市化と過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化を背景として、地域のつながりや支え合い機能の低下が指摘されています。これにより、人々や家庭の孤立化が懸念されるとともに、地域社会の教育力の低下が課題となっています。

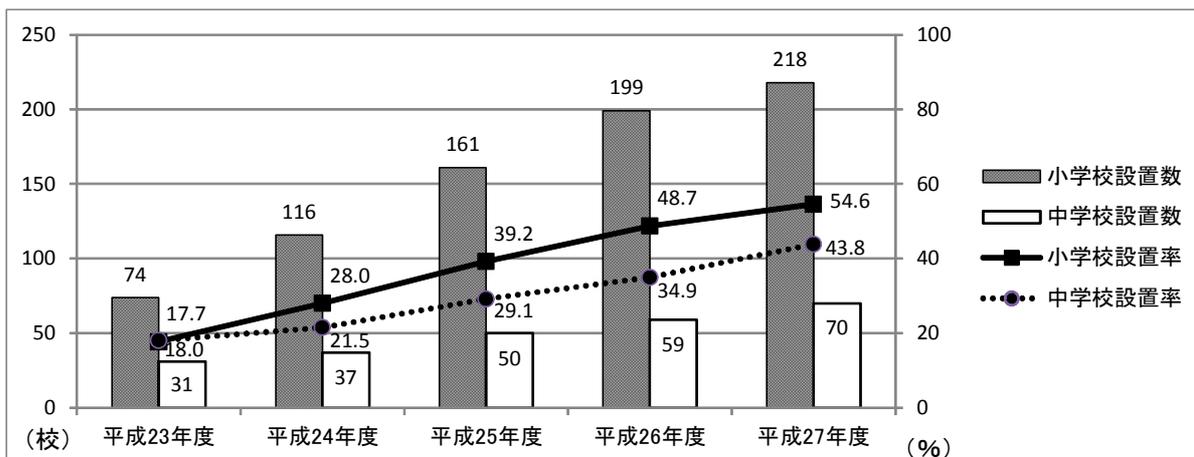
また、中山間地域などの人口減少が進んでいる地域においては、若者の都市部への転出や少子化による学校の統廃合等に伴い、地域の活力の維持や地方創生のための人材育成等が課題となっています。

3 本県の地域と子どものかかわり

これらの現状と課題を受け本県では、地域ぐるみで子どもを健やかに育むとともに、地域社会の教育力の向上を図るために、地域住民が組織的に学校教育活動を支援する学校支援地域本部事業の取組を推進しています。この事業では学校支援ボランティアが、ミシン学習の補助や花壇の整備、登下校の安全見守り等、学校の要望や地域の実態に合わせた支援を行っています。

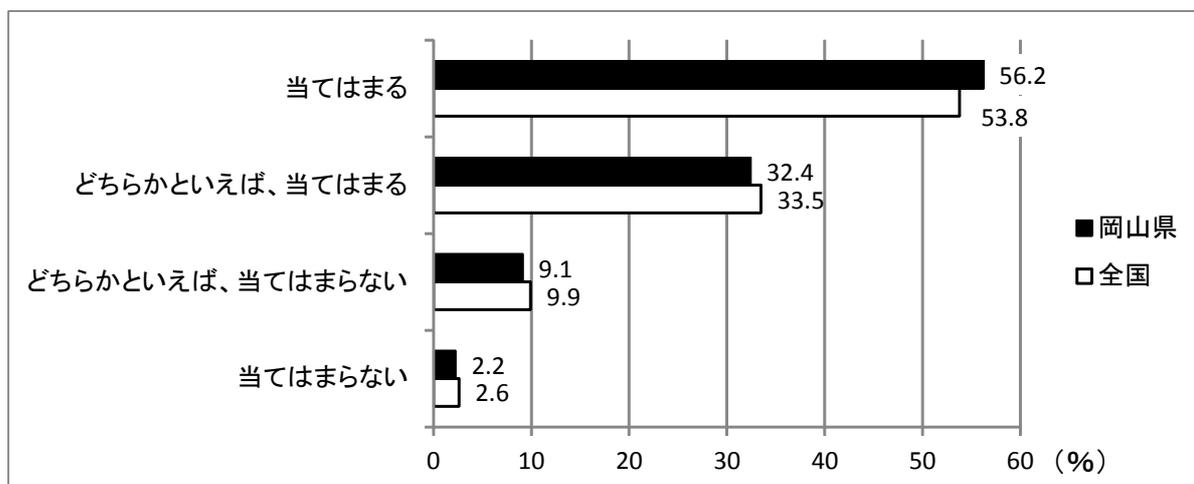
この事業は開始から8年が経過し、学校支援地域本部の設置数と設置率が増加しており、地域から子どもへのかかわりの機会が増え、県下での教育支援体制が整いつつあることが分かります。一方で、小学校に比べ中学校の設置率は低い状況となっています。（**グラフ1**）

グラフ1 学校支援地域本部の設置数と設置率の推移（最近5年間）



学校教育支援等の地域から子どもへのかかわりが増えている一方、子どもから地域へのかかわりをみると、「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」の問に対して、「当てはまる」と答えた岡山県の中学3年生の割合は56.2%、「どちらかといえば、当てはまる」は32.4%と、合わせると約9割の中学生が肯定的な回答をしています。（グラフ2）

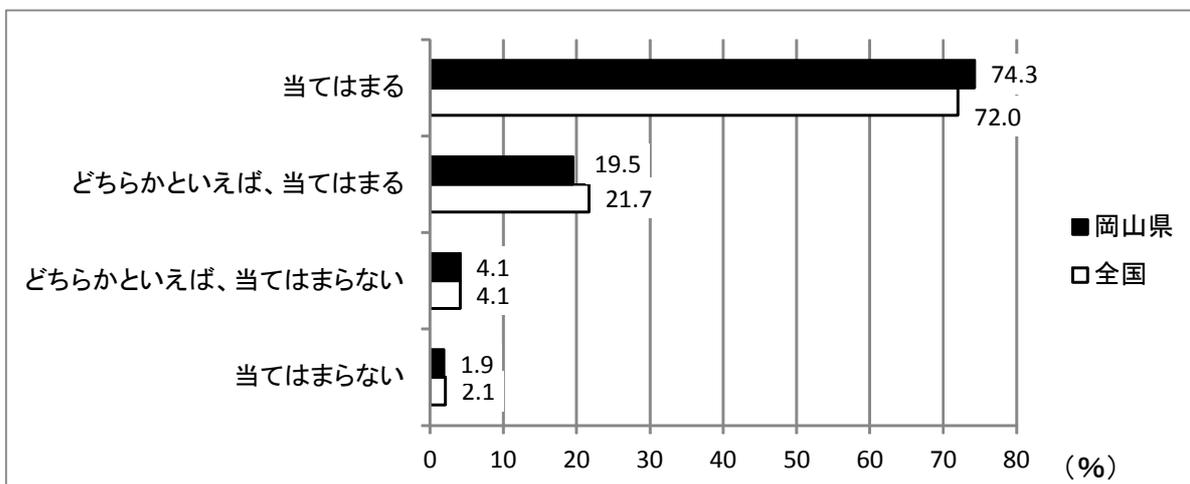
グラフ2 「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」【中学3年生】



（平成24年度 全国学力・学習状況調査）

さらに、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問に対して、「当てはまる」は74.3%、「どちらかといえば、当てはまる」は19.5%と、合わせると9割以上の中学生が肯定的な回答をしています。(グラフ3)

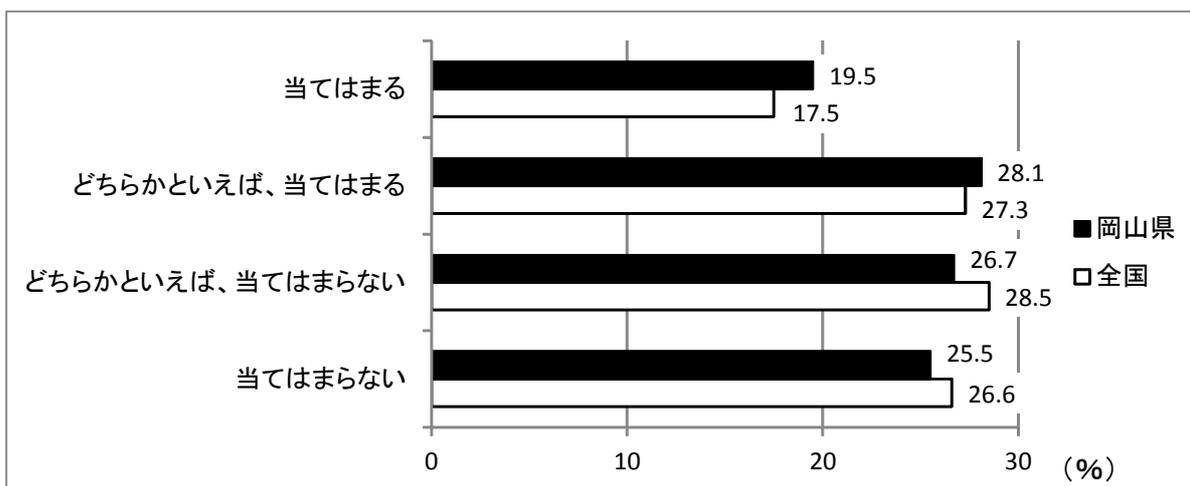
グラフ3 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」【中学3年生】



(平成27年度 全国学力・学習状況調査)

また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問に対して、岡山県の中学3年生の19.5%が「当てはまる」と答えています。これは全国平均より高いものの、決して十分とはいえない状況と考えられます。(グラフ4)

グラフ4 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」【中学3年生】



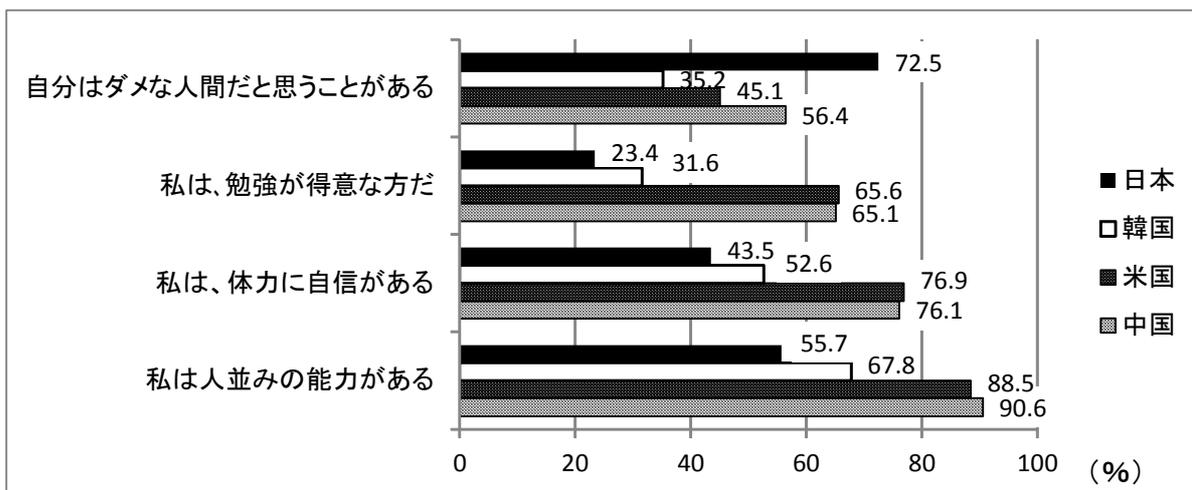
(平成27年度 全国学力・学習状況調査)

これらのことから、本県の中学生の多くは、あいさつなどの簡単な地域とのかかわりは持っており、人の役に立ちたいという気持ちはあるものの、多くの人々の協力により行う地域の行事に参加できている中学生は半数に満たないという実態がうかがえます。

4 日本の若者の自己認識

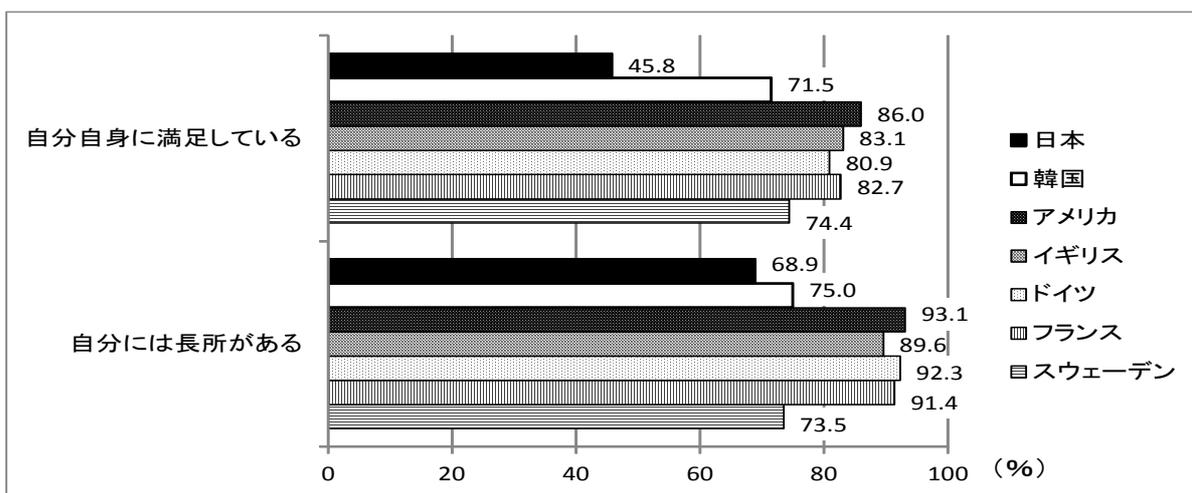
日本の高校生の自己認識について特徴的な調査結果があります。『高校生の生活と意識に関する調査報告書』や『子ども・若者白書』によると、「自分はダメな人間だと思うことがある」は約7割、「自分自身に満足している」は5割弱など、自己肯定感が諸外国に比べて極めて低くなっています。(グラフ5・6)

グラフ5 自分自身についての考え



(平成27年8月 高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較- 国立青少年教育振興機構)

グラフ6 自己肯定感について



(平成26年6月 平成26年版子ども・若者白書 内閣府)

この傾向は「奥ゆかしい」「謙虚な」といわれる日本人の特性と考えることもできますが、前述のように、岡山県でも多くの子どもは人の役に立ちたいという気持ちが高いということから、それを実現し人に役立つ経験をすることによって、自分の存在や役割を肯定的に捉え、自己肯定感が高まっていくのではないかと考えられます。

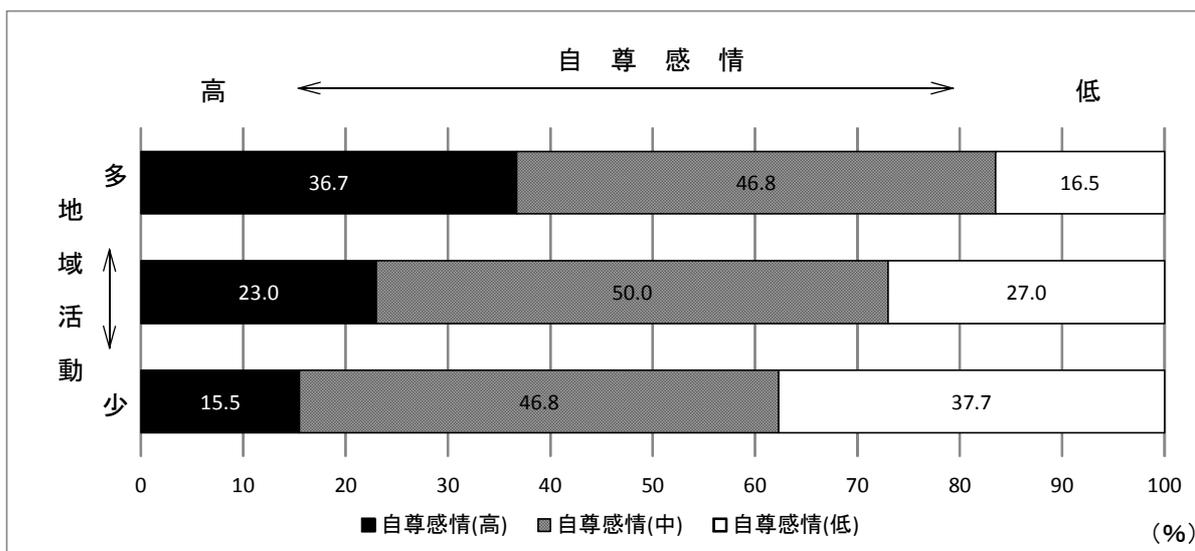
II 本研究の視点

前述のように、地域ぐるみで子どもを健やかに育むための取組が推進され、地域から子どもへのかかわりである学校教育支援等、地域と連携した取組は増えています。しかし、中学校への支援になると学習内容が難しくなることなどから、教科指導補助等の学習支援は少なく、施設修繕等の環境整備が多くなり、校内で直接、地域の方とかかわる機会が少ないという実態があります。

こうした実態や、中学生以上の中高生の発達段階を考えた場合、行動範囲が広がり、コミュニケーション能力等、様々な能力が高くなり始めるこの時期に、学校ではなく地域で活動をする方が、地域の方とかかわりが容易にできると考えられます。

また、中学校期の「地域活動」が多い群ほど、「自尊感情」が高くなる傾向が見られるという調査研究の結果より、若者（中高生）の自己肯定感が低いという現状においては、学校教育だけでなく、地域社会の教育力を活用した中高生の地域活動を創出することによって、自尊感情や自己肯定感の向上につながると考えます。（グラフ7）

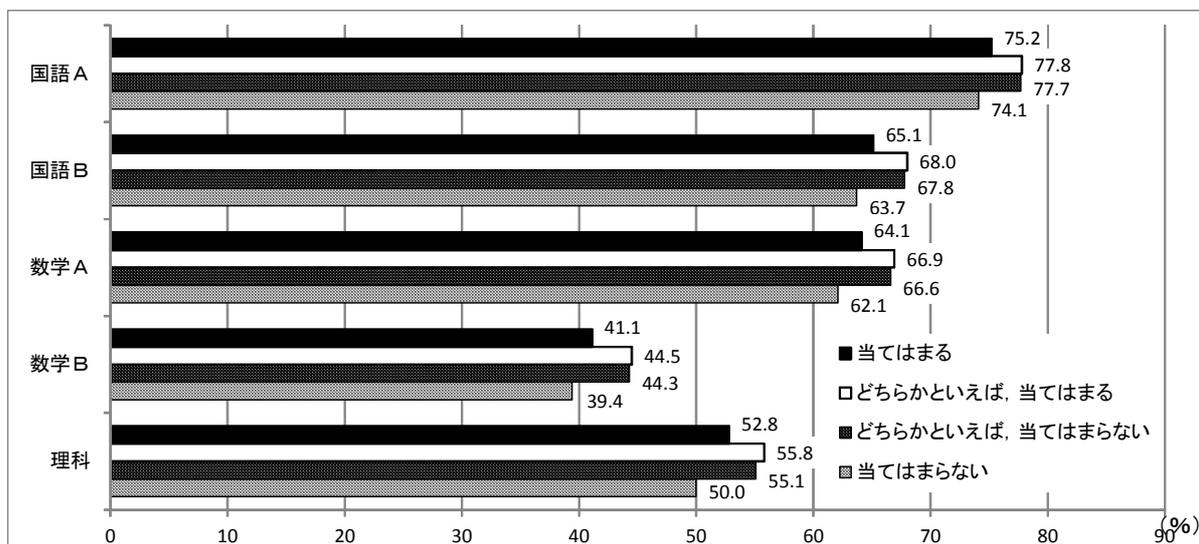
グラフ7 中学校期の「地域活動」と「自尊感情」の関係【高校2年生】



（平成22年10月 子どもの体験活動の実態に関する調査研究報告書
国立青少年教育振興機構）

地域の行事への参加状況と学力との関係を見ると、どの教科においても「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定群の平均正答率が若干高くなっている傾向が見られます。(グラフ8)

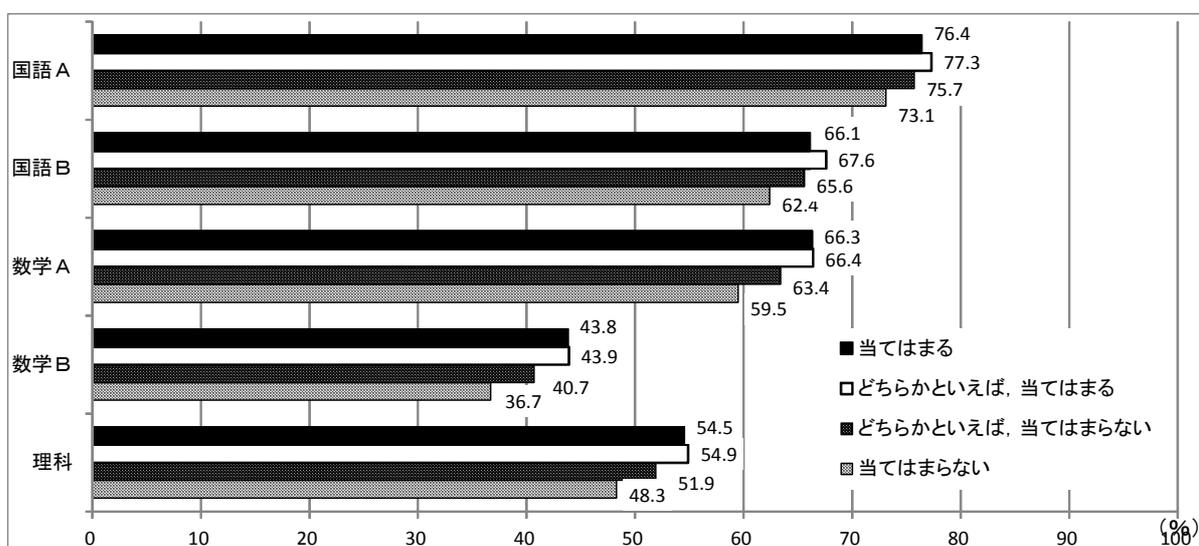
グラフ8 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
 <生徒が回答した選択肢別の各教科平均正答率>【中学3年生】



(平成27年度 全国学力・学習状況調査)

自己肯定感と学力の関係を見ると、どの教科においても「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定群の平均正答率が高い傾向にあることから、中高生の地域行事への参加と自己肯定感の向上について研究することは、本県の教育課題の解決に資すると考えられます。(グラフ9)

グラフ9 「自分には、よいところがあると思いますか」
 <生徒が回答した選択肢別の各教科平均正答率>【中学3年生】



(平成27年度 全国学力・学習状況調査)

以上のようなことから、中高生が地域で役割を持ち活躍する（輝く）ことによって、自己肯定感が高まることが期待されます。さらに、こうした活動によって地域への誇りや愛着心・郷土愛が生まれ、ひいては、地方創生のための人材育成や将来の地域定住にもつながると考えられます。そして、本県の教育課題である問題行動や不登校の増加、学力面の低下等の解決や中高生が地域へ主体的にかかわる力を身に付けさせる主権者教育の推進の一助にもなるのではないかと考えました。

つまり、中高生の地域での活動が、地域への愛着心を高め、自己肯定感の向上を促すとともに、本県の地域社会や教育の課題の解決、あるいは、地方創生や地域活性化にもつながると考え、地域における中高生の「出番」「役割」をキーワードに以下の研究課題を設定し、調査研究を行うことにしました。

研究課題

地域の中で輝く中高生の出番づくり
～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～

※「地域」について

本研究の「地域」については、基本的には中学校区等、子どもの生活圏と考えます。

社会教育委員の会議では、この研究を進めるに当たり、研究課題に対する意見を整理しました。（表1）

表1 研究課題に対する意見の整理

- 学びをとおした地域づくりが非常に大切である。今回は、今まで十分検討してこなかった「大人と子どもの出番づくり」の視点で研究を行う。
- 地域が子どもを元気にするための支援が進んできた。若者の社会参画に着目するという方向性は、元気な子どもが地域を活性化し、双方向の取組につながる。
- 様々な活動を展開している団体や組織の存在を知ってもらうことが、今後の中高生の出番づくりの推進につながる。
- 本会議として、今以上に子どもが社会に入りやすくする状況をどう作っていくかの研究をすすめる。

Ⅲ 事例紹介・事例分析

【調査方法と経過】

研究開始にあたり、まず、県内の中高生が参画する事業や活動の実態を調査しました。県立及び市町村立中学校・公民館・市町村教育委員会に対しては質問紙法による調査、県教育庁高校教育課・岡山NPOセンターに対しては聞き取り調査をしました。

県内各地から中高生が参加する200以上の事例が寄せられ、その中で出番や役割がある29事例（30ページ参照）に絞りました。そして、本会議にて「公民館」「中・高等学校」「市町村等」の実施主体別に分類し、中高生が主体的に参画している以下の6事例を抽出しました。その後、各事例における中高生の企画・運営へのかかわり方や大人・異年齢者とのつながり、事業の成果等についてヒアリングをとおして分析することにしました。（表2）

6事例のヒアリング後、本会議において、中山間地域や小規模校だけでなく、都市部の大規模校にも追加調査を行うことを協議し、県下の様々な地域や学校規模についての取組事例を紹介することにしました。（表3）

また、中高生と地域の大人に対して、地域活動前後の意識等の変容を詳しく調べるためにアンケート調査を実施しました。さらに、中高生については、自己肯定感と地域への愛着心に関する項目について、5段階の選択肢によるアンケート調査もしました。

表2 ヒアリングを行った取組事例

区 分	実施主体・活動名
公民館 での取組	・ 笠岡市陶山公民館 【ふれあいまちづくり納涼祭】 ・ 岡山市立上南公民館 【体験型講座「みんなあつまれ」】
中・高等学校 での取組	・ 県立矢掛高等学校 【やかげ学】 ・ 赤磐市立高陽中学校 【小学校への出前講座】
市町村等 での取組	・ 粟井春日歌舞伎保存会 【粟井春日歌舞伎】 ・ やかげ小中高子ども連合(YKG60) 【子どもが主体の地域活動】

表3 追加調査事例

大規模校 での取組	・ 岡山市立竜操中学校 【赤田町内夏祭り】 ・ 県立倉敷南高等学校 【倉敷町衆プロジェクト】
--------------	---------------------------------------------------

次ページからの事例紹介は、事例ごとに見開きページで示し、取組の概要や、企画運営への中高生のかかわり、アンケート結果、事業の成果と課題等を紹介しています。

【事例】公民館での取組

笠岡市陶山公民館		ふれあいまちづくり納涼祭																									
<p>概 要</p> <p>中高生が参画し、活力ある地域を作ることを目的に、毎年8月の第1土曜日に陶山小学校グラウンドで行われる納涼祭</p> <p>(参加者) 地域住民約800人</p> <p>(内 容) 舞台での出し物、地域団体による屋台</p>																											
<p>企画運営への中高生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は、金浦中学校2年生13人と3年生12人、高校生3人が、かかわっています。 事前の企画会議から参加し、祭りの翌日に行う反省会まで参加します。 司会の分担や屋台の内容は中学生が話し合いによって決めます。 当日の活動は中学生が中心で、高校生は司会等サポートを行います。 P T A、青年団、消防団等の地域の大人が中高生に声をかけ、活動を賞賛します。 小学生は、今度は自分たちが喜ばせる番だと意識し、中学生の存在にあこがれます。 																											
<p>アンケート結果</p> <p>(中高生の意識の変容)</p> <p>大きな変容は見られませんが、地域行事へ参加する中高生の地域への愛着心はもとも高い傾向が見られます。(5点満点で、白抜き数字は上昇した項目)</p> <table border="1" data-bbox="231 1146 1300 1377"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>n=26</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域への 愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td>4.2</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td>4.7</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自己 肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td>2.8</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高生はこの活動をとおして、「たくさんの人に喜んでもらったし、みんなで協力してやりとげた事がすごく達成感があって、いい経験をさせてもらった。」と達成感を感じています。 地域の大人も、「中学生が参加することで、大人も頑張ることができた。」「地域全体を盛り上げる一躍を担っている。」と中高生の参画についての評価をしています。 							n=26	事前	事後	地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.2	4.2	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.7	4.2	自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	2.8	3.0	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.5	3.4
		n=26	事前	事後																							
地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.2	4.2																							
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.7	4.2																							
自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	2.8	3.0																							
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.5	3.4																							
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生という年代を考慮し、時間をかけ徹底的に話し合うことによって合意形成しているので、主体的に活動することができます。 ○小学生時から公民館とのつながりを作ることによって、中学生になっても公民館は気軽に来られる場所になっています。 ○地域連携担当教職員や社会教育主事でもある教頭が学校の窓口として、地域との連携を取ることができています。 ●小学校統廃合の話があり、地区外の中学生も受け入れる等、今後の対策が必要です。 																											

○成果 ●課題

地域総がかりで、中高生の活躍と賞賛の場を創出

笠岡市立陶山公民館（ふれあいまちづくり納涼祭）

陶山地区は、笠岡市北西部に位置し、福山市に隣接しています。小学校、幼稚園、公民館は小高い丘にあり、地域を一望できるロケーションになっています。

納涼祭は、公民館を活用して、中学生の地域での活躍を考えていた中学校の先生からの申し入れにより平成18年に始まりました。2年生は運営全般とアナウンス、3年生は売店の計画準備や運営を行っています。さらに中学校を卒業した高校生も、司会や記録係として参加していることから、中学生時の体験が充実し、高校生の心に残っていることが分かります。この祭りには毎年、他地区を含め多くの参加者があり、陶山地区の一大イベントとなっています。

とことん話し合うことが大切

陶山地区の中学生は、小学生の頃から公民館行事である「陶山土曜チャレンジクラブ」を体験し、**公民館が身近な場となっている**ので納涼祭への参画がスムーズになっています。中学生は7月の事前打ち合わせ会から参画していますが、中学生は自分の考えがあっても、なかなか自分からは言い出せない場合があるので、会議で大人は、話し合いの時間を確保し、お互いが納得の上で内容等が決定できるように配慮しています。地域の大人、保護者、**地域連携担当教職員**、それぞれの立場で中学生の意見を十分に引き出そうとしています。そして、最初は発言が少なかった中学生も、時間が経つにつれて、役割分担や売店の企画など積極的に意見を言うようになっていました。とことん話し合うことによって、祭りについて真剣に考え、主体的な活動になってくるのです。

地域みんなで活動を賞賛

地域で活動することは、学校とは違い、**大人の世界での活動**になります。担当者は、名札の着用やあいさつなど**礼儀については特に徹底して指導**をしています。そうすることによって地域での活動の心構えがだんだんとできあがり、まわりの大人も中学生を一人前として関わってくれるようになってきています。

納涼祭当日には、中学生は必ず舞台にあがり、代表があいさつをしています。開会式では、気持ちを引き締め、閉会式では、地域住民からの大きな拍手を受け、祭りに参画したことへの満足感や達成感を味わうことができます。中学生の紹介の場を特別に設定することによって地域への愛着心の向上も期待できます。

翌日には地域の方と一緒に反省会を実施し、活動のふり返しを行っています。地域の方からお礼や、賞賛の言葉を直接もらうことで、自己肯定感や地域への愛着心、地域活動の意欲も高まると考えられます。



閉会行事での紹介

【事例】公民館での取組

岡山市立上南公民館		体験型講座「みんなあつまれ」																																
<p>概 要</p> <p>地域の中学生の自主性、協調性、地域とかかわる力を育むこと等を目的に、夏休みから2月まで毎月行われている公民館の主催講座 (参加者) 小学生 (内 容) きもだめし、ハロウィン、ケーキ作り等 (プログラムは毎年変わる)</p>																																		
<p>企画運営への中学生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館のボランティアグループ「E-joy」の中学生9人がかかわっています。 ・毎月1回行われる企画会議でアイデアを出し、講座の準備をします。 ・講座当日は、受付をしたり、小学生のサポート等を行いながら、地域の講師や手伝いに来る民生委員等と協力して講座を実施します。 ・地域の大人は中学生ボランティアをほめつつも、態度がよくない時には注意もします。 																																		
<p>アンケート結果 (中学生の意識の変容)</p> <p>地域への愛着心はもともと高く、活動後には自己肯定感がかなり向上している傾向が見られます。</p> <table border="1" data-bbox="231 1193 1302 1426"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th>n=9</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域への愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td></td> <td>5.0</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td></td> <td>5.0</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>自己肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td></td> <td>2.1</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td></td> <td>2.7</td> <td>3.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生にとって「地域のことをもっと知ってもらいたい。」「小さい子と話ができるようになった。」と地域や小学生など他者に関心が向くようになっていきます。 								n=9	事前	事後	地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか		5.0	4.9		2	自分の地域はいい地域だと思いますか		5.0	4.9	自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか		2.1	3.0		4	あなたには自分らしさがあると思いますか		2.7	3.9
			n=9	事前	事後																													
地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか		5.0	4.9																													
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか		5.0	4.9																													
自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか		2.1	3.0																													
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか		2.7	3.9																													
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介シートやふり返しシートを活用し、自分の気持ちや成長を意識する場面を意図的に作ることで、次の活動の意欲や活動の改善につながります。 ○年間をとおして様々な講座を継続的に実施することで、話し合いや活動場面でのリーダー育成ができます。 ●担当者として子どもの選択肢を増やし、中学生の提案にさらに応えられるようにしたいと考えています。 																																		

○成果 ●課題

ふり返りを大切にし、中学生の成長を促す

岡山市立上南公民館（体験型講座「みんなあつまれ」）

岡山市の南東部、豊かな田園風景の中に上南公民館があります。岡山市中心部に比較的近い地域ですが、上南地域は少子高齢化が進んでいるため、子どもは地域の将来を担うための重要な存在になっています。「みんなあつまれ」は、夏休みから2月まで毎月行っている、小学生を対象とした公民館の主催講座です。

開始のきっかけは、平成11年に中学生ボランティアを公民館に呼ぼうと館長が上南中学校へ相談したことです。当時、十分活動ができていなかった吹奏楽部の4人が、部活動として始めました。その後、平成19年に吹奏楽部は廃部となりましたが、公民館に「E-joy」というボランティアグループができ、活動が続いています。

継続的な活動にするために

講座は7月から始まりますが、準備はすでに4月から始まっています。最初の仕事はメンバー募集です。ボランティアグループのメンバー募集は中学校行事である部活動紹介で実施しており、これはメンバーの発案により始まりました。学校との交渉も自分たちで行っています。

活動は毎月の打ち合わせと年8回の講座の実施です。上南公民館では全ての主催講座において企画会を開き、地域住民の声を事業の中に取り入れようとしています。「みんなあつまれ」は小学生対象ということもあり、年齢の近い中学生が企画にかかわるようになったのです。

担当者は、活動が強制にならないように、**最低限のルール以外は厳しくしない**ように心がけています。そうすることによって、企画の話し合いでは自由な意見が飛び交い、その意見がさらに採用されることで、自己肯定感の向上につながっています。その他、各講座での中学生の担当は決まってはいませんが、話し合いや活動場面において**リーダー性の向上**を意識しています。

そして、最後に中学生が受け取る「感謝状」は、本物の賞状用紙に書かれ、館長の職印もある立派なものです。1年間の活動をふり返り、感謝状をもらおうと中学生でも嬉しいものです。このような**地域からの評価**も次への活動の意欲になっています。

ふり返りを大切に

毎回、活動の後にはふり返りシートに、「がんばったこと」「できなかったこと」「感想」を記入しています。具体的に書くことによって内省し、自分の成長を捉えようとしているのです。ふり返りの中には、楽しさの中にも、**反省を生かし次回への意欲**が感じられるものが多くありました。また、人とのコミュニケーションを大切にしていることも読み取ることができます。



毎回行う活動のふり返り

1年生から活動を続けている3年生の生徒の中には、この活動を生かして、地域での活動や地域活性化について学ぶことができる高等学校への進学を希望している者もいるなど、生徒の進路選択にも好影響を与えています。

【事例】中・高等学校での取組

岡山県立矢掛高等学校		やかげ学																																										
<p>概 要</p> <p>地域での体験活動をとおして、達成感や満足感を持たせると同時に、自己の進路を模索する活動に結びつけることを目的に、町の歴史や文化などを学んだ後、毎週木曜日の午後に職場実習を行う学校設定教科 (参加者) 小学校や保育園、図書館、老人福祉センター等協定を結んでいる町の13施設 (内容) 各施設でのボランティア活動</p>																																												
<p>企画運営への高校生のかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科総合コースの2、3年生が学んでいます。 ・地域にある教育、福祉、農業等の分野の事業所でキャリアに結びつくボランティア活動を実施します。 ・保育園では高校生の実習中に職員会議を行うなど、生徒と受け入れ側双方にメリットがあります。 ・受入施設も単なる手伝いではなく、責任のある仕事を任せます。 ・地域の方は、高校生が地域にかかわることを当然のことと捉えています。 																																												
<p>アンケート結果 (高校生の意識の変容) 2年生は事後に下がっている項目はなく、3年生は全ての項目で向上しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" rowspan="2">n=2年生:52、3年生:66</th> <th colspan="2">2年生</th> <th colspan="2">3年生</th> </tr> <tr> <th>事前</th> <th>事後</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域への愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td>4.3</td> <td>4.4</td> <td>3.6</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td>4.4</td> <td>4.4</td> <td>3.7</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>自己肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td>3.1</td> <td>3.3</td> <td>2.8</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> <td>3.2</td> <td>3.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、「地域のことについて、できることを考えるようになった。」「矢掛の町に少しでも役立てたと思う。」と自己有用感を感じています。 ・受け入れ施設より「継続的、計画的な取組、実践ができていたので、年間を通じて大変有意義であった。」「この施設で学んだことが、仕事や専門学校や大学の進学に少しでも将来に役立っているのが嬉しい。」との感想があります。 							n=2年生:52、3年生:66		2年生		3年生		事前	事後	事前	事後	地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.3	4.4	3.6	3.9		2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.4	4.4	3.7	4.0	自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.1	3.3	2.8	3.0		4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.5	3.5	3.2	3.4
	n=2年生:52、3年生:66		2年生		3年生																																							
			事前	事後	事前	事後																																						
地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.3	4.4	3.6	3.9																																						
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.4	4.4	3.7	4.0																																						
自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.1	3.3	2.8	3.0																																						
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.5	3.5	3.2	3.4																																						
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校特設教科により、教育課程に位置づけられ、地域で継続的に活動することにより、地域にとっては地域活性化、高校生にとってはキャリア教育になっています。 ○先輩から後輩への各活動場所での引継が確実に行的ることにより、毎年同じような活動の繰り返しではなく、発展的な取組ができています。 ○地元の役に立ちたいと地元で就職を決める生徒が増加しています。 ●行政のまちづくり関係、保健福祉課、農林課、NPO等、ネットワークを広げることが今後の課題です。 																																												

○成果 ●課題

矢掛のまちは大きな教室

岡山県立矢掛高等学校（やかげ学）

県立矢掛高校は矢掛町の中心に位置し、普通科、地域ビジネス科からなる生徒数約400人の学校です。平成16年に矢掛商業高校と再編整備され、町内に残る唯一の高等学校となりました。高校の教育方針が中学生に伝わりにくかったことや生徒のマナー低下や問題行動の増加により、地元中学生の町外への流出が顕著になったことをきっかけに、矢掛高校では「やかげ学」という学校設定教科を設け、高校生自身のキャリア教育と地域活性化のために積極的に地域に出ています。

「かかわり」「つながり」を重視した体験的地域学

「やかげ学」は、2年生からスタートします。4月から7月は、地域学と称して、矢掛町の職員から、福祉、行政、観光、文化、教育など町の概略についてのワークショップ型の講義を受けます。そして、9月から3年の7月までは、毎週木曜日の午後、保育園、小学校、老人福祉施設、農業施設など13か所で職場実習を行っています。この**長期的な職場実習**がやかげ学の特徴の一つです。県内を見ても、学年をまたぎ、長期的、継続的に実習を行っているところは少ないようです。そして、3年生の9月からは、12月の報告会に向けての準備をします。12月、最後の報告会が「やかげ学」のまとめであり、地域から学び、生徒の成長した姿を見ることができる最大の見せ場になります。



木曜日の午後、各施設へ出発

生徒と地域がWin-Winの関係に

「やかげ学」によって、生徒は、今後の進路選択に具体的な気づきを得ることができます。それまで自分の進路について漠然としか考えていなかった生徒が、自分と真剣に向き合い、進路を自己決定していくのです。「〇〇をしたいから、〇〇の大学に行きたい。」「卒業したら矢掛の〇〇で働き、〇〇をしたい。」と生徒の発言にあるように生徒たちの**キャリア形成に大きく関わっている**ようです。

また、「やかげ学」によって学ぶのは、生徒だけではありません。受け入れ施設では、任せられる仕事を与え、**生徒の成長を常に意識**しているのです。あえて困難な体験をさせ、その中から学び、次の活動で成功体験をさせ、ほめています。生徒をどのように成長させてやろうか、各施設で色々と考えているのです。これも、長期的な取組をしているからこそです。聞き取りでは、施設では生徒が来るのを楽しみに待ち、かかわりをとおして地域の大人にも学びがあることを感じました。

地域と学校の持続発展のために

学校は、地域のために何ができるのでしょうか。地域は、学校のために何ができるのでしょうか。中山間地域の高等学校を持続発展させるためには、**地域と学校の協働**が欠かせないのです。県下でも、地域との協働を進めている高校が見られるようになってきました。そして、地域の方々に支援してもらった子どもの中には、高校生になって**地域に恩返し**をし、さらに**地元**に就職をする生徒もおり、そのような循環が矢掛高等学校を中心に矢掛のまちにはできつつあります。

【事例】中・高等学校での取組

赤磐市立高陽中学校	小学校への出前講座																							
<p>概 要</p> <p>生徒に役割と責任の自覚を持たせることを目的に、携帯・スマホ持込追放推進委員会(中学生)による、学区内の小学校への出前講座</p> <p>(参加者) ①赤磐市立山陽小学校の全校児童362人とその保護者105人 ②赤磐市立山陽西小学校の4～6年生児童123人とその保護者41人</p> <p>(内容) 携帯電話・スマートフォンの危険性と正しい使い方を伝える学習会</p>																								
<p>企画運営への中学生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> 立候補して携帯・スマホ持込追放推進委員会の推進委員になった3年生4人と2年生5人が企画運営をしています。 委員会活動は月に1回程度行われ、生徒にアンケートを取って課題をつかみ、推進委員と担当教職員との対話によって対策を考えています。 																								
<p>アンケート結果</p> <p>(中学生の意識の変容)</p> <p>自己肯定感はもともと高い傾向にあり、活動後には全ての項目について向上しています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">n=9</th> <th style="text-align: center;">事前</th> <th style="text-align: center;">事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">地域への 愛着心</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td style="text-align: center;">4.0</td> <td style="text-align: center;">4.3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td style="text-align: center;">4.2</td> <td style="text-align: center;">4.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">自己 肯定感</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td style="text-align: center;">3.7</td> <td style="text-align: center;">4.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td style="text-align: center;">3.9</td> <td style="text-align: center;">4.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒は、「小学生に携帯でのトラブルについて分かってもらえた。」「人前で発言することに対して、自信がついた。」と活動をふり返っています。 今後の活動について、「小学生に分かってもらいやすくするために劇などの工夫をした。」「多くの人に自分たちの活動を伝えたい。」と次の活動への意欲を高めています。 				n=9	事前	事後	地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.0	4.3	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.2	4.5	自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.7	4.1	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.9	4.4
		n=9	事前	事後																				
地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.0	4.3																				
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.2	4.5																				
自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.7	4.1																				
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.9	4.4																				
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周りの大人からの「よくなった。」「がんばっているね。」という声が生徒に届くことで活動が認められ、自信につながります。 ○より身近な地域の先輩という立場で出前講座(啓発活動)をすることで、小学生の気持ちに直接的に訴えることができます。 ○学校には学校支援地域本部が設置されており、日頃から地域との結びつきは強く、中学生の活躍の場が地域に確保されます。 																								

○成果 ●課題

現代的課題を身近なお兄さんお姉さんとしてアドバイス

赤磐市立高陽中学校（小学校への出前講座）

高陽中学校は旧山陽町に位置し、山陽小学校、山陽西小学校の2小学校が学区にある、全校生徒約330人の中学校です。平成26年度に学校支援地域本部が立ち上がり、地域との結びつきも深い学校です。岡山県教育委員会では、平成26年12月に、携帯電話・スマホ・ゲームの9時以降の夜間使用制限を打ち出し、生徒主体でそのルールづくりを進めています。高陽中学校でも携帯・スマホで生徒が困っている実態がありました。そこで、校内で携帯・スマホを使わない委員会を立ち上げようという気運が高まってきました。実際に困ったことがある生徒を中心に推進委員に立候補し、その後生徒会役員も協力を申し出ました。

生徒自らが考えて行動する

平成26年3月に「第1回携帯・スマホ持込追放推進大会」が開催されました。これは県下でも先進的な取組で、今後の中学生の取組の参考となるものでした。大会では、校内への持込の禁止を訴え、大会後、持込を注意する人の割合は3年生が最も多くなりました。つまり、生徒自らが作ったルールを守らせようとする意識が高くなったことの表れです。

平成27年3月には第2回、7月には第3回と、新しい課題に対して取組を続けています。2代目の推進委員は先輩からの意志を引き継ぎ、「携帯・スマホを使用する際のルールづくり」に取り組んでいます。保護者との話し合いの場を設け、お互いが納得の上で「高陽中携帯・スマホ5箇条」を作成しました。

身近な先輩だからこそ伝わることもある

現在、携帯・スマホの問題は、中学生から小学生へと低年齢化しています。このことを知った推進委員が、小学校へ出向いて、携帯・スマホのトラブル等について説明することになりました。そして、小学生に分かりやすく伝えるために、美術部作成の紙芝居で説明することになりました。

推進委員にとっては母校である小学校、小学生にとっては最近まで一緒に過ごした**身近な先輩**、そのような関係だからこそ、大人からのアドバイスとは違い、「あの先輩が言ったから気をつけないといけない。」「こんな怖いことがあるんだ。」と小学生の心によく響くのです。中学生にとっても、かわいい後輩に一人でも怖い思いをさせてはいけないという思いが強くなるのです。中学生が、地域で活躍できる場面となりました。この活動をきっかけに校区内の小学校でも、スマホやゲーム機を家庭で使用するときのルールづくりがスタートしたのです。



携帯・スマホの問題を直接伝えます

【事例】市町村等での取組

粟井春日歌舞伎保存会		粟井春日歌舞伎																									
<p>概 要</p> <p>毎年10月に歌舞伎施設春日座の歌舞伎舞台に地区の全小学校6年生、帰郷した若者が出演</p> <p>(参加者) 地元住民約300人</p> <p>(内 容) 春日神社秋期大祭にあわせた粟井春日歌舞伎芝居の奉納</p>																											
<p>企画運営への小学生・若者のかかわり</p> <p>・粟井春日歌舞伎保存会から声をかけた旧粟井小学校の6年生4人と卒業した若者5人（平成27年度）が、8月より始まる週2回の練習に参加をしています。</p>																											
<p>アンケート結果</p> <p>(小学校6年生と若者の意識の変容)</p> <p>地域への愛着心はもともと高い傾向にあり、自己肯定感は向上する傾向が見られます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>n=10</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域への愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td>4.7</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td>4.8</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自己肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td>3.9</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td>4.1</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「若い世代と共に未来へ向けて取組を継続していくことは非常に価値がある。」「地域に残り、この地域を引き継いでいってもらえれば嬉しい。」「世代間の交流が疎遠になりがちな地域社会の中での地域活性化の一躍を担って欲しい。」とこの活動への期待の大きさが伝わってきます。 ・「地域の人たちとの交流の場になり良かった。」「地域の方々とも親しみやすくなった。」と練習から本番まで、繰り返しかかわることにつながりができています。 							n=10	事前	事後	地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.7	4.4	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.8	4.6	自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.9	4.0	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	4.1	4.3
		n=10	事前	事後																							
地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.7	4.4																							
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.8	4.6																							
自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.9	4.0																							
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	4.1	4.3																							
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <p>○保存会の大人が全ての6年生にかかわり、子どもには一人に一役を与えられることで、自分しかいないという責任感が育ちます。</p> <p>○6年生が出演することで、中高生は後輩に関心を持ち、下級生は何年後かの自分をイメージすることができます。</p> <p>○伝統芸能を共通の話題に、子ども、若者、大人と世代を超えた交流ができています。</p> <p>○かつて歌舞伎を経験した若者が帰郷し、再び舞台に立ち、世代間の循環ができています。</p> <p>●地域の小学校が廃校のため、声かけの範囲を広げたり、中学生を集めたりして舞台を続けられないか検討しています。</p>																											

○成果 ●課題

小学生の時の体験が地域への愛着を強化

粟井春日歌舞伎保存会（粟井春日歌舞伎）

美作市の北部の山間の集落、粟井地区は、明治時代から地下歌舞伎が盛んでした。昭和40年代に入り、衰退の一途をたどっていましたが、昭和52年に伝統を絶やしてはいけないという強い気持ちから地域の青年団が中心となり保存会を結成し、保存活動を継続していました。平成8年には歌舞伎座（芝居小屋）ができ、平成10年、小学校の児童をぜひ地域の活動に参加させてはどうかというアイデアから粟井小学校(平成26年度で廃校)の6年生が参加して、演じることになりました。

少人数の特性を利用

粟井小学校の学区の児童数は少なく、スポーツ少年団の球技等の活動には制限があることも多いのですが、歌舞伎は**人数にあわせて一人一人が活動できるような演目を準備**できます。

一人一人が主人公

児童には様々な特性があるが、保存会の指導者は、根気よく付き合い、**児童の理解度に合わせて指導**を行います。時には大きな声で指導することもあります。これも成長してから歌舞伎が思い出になってくればという思いからきているのです。緊張しながらも、6年生になると全ての児童が舞台に立ち、大きな拍手を受け、達成感を味わうことができます。

下級生は6年生の活躍する姿を見て、次はあの舞台に立てるんだという期待に胸を膨らますことができます。等、気持ちの準備ができます。



演目「曾我対面」を若者が熱演

体験の共有は仲間の絆を深める

中学校進学後に子どもはそれぞれの進路を進みますが、大学卒業時に進路を考えたとき、「仲間といっしょに！」帰郷を選択する若者が出てきています。平成26年度は、10年前に同学年で歌舞伎を経験した男子9名のうち6名が帰郷し、そのうち5名が舞台に再度立ち、力強い演技で地域に元気を与えています。

彼らは楽しそうに言います。「友達に『おまえ帰る？』って聞いたら、『帰ろうや！』と返事があった。粟井が好きじゃから。」

地域の大人が丁寧にかかわり、声をかけた子どもの心には、**ふるさとへの愛着が知らず知らずのうちに生まれています**。このような若者の姿を見ることができるのは、継続的な取組の賜なのでしょう。そして、**次の世代への循環**が生まれるのです。

【事例】市町村等での取組

やかげ小中高子ども連合（YKG60）	子どもが主体の地域活動																												
<p>概 要</p> <p>地域に誇りや自信を持って語れる子の育成等を目的に、矢掛町内の小中高生による地域課題の解決や町のブランドづくりをする地域活動</p> <p>（実施時期）①平成27年8・9月の日曜 ②平成27年11月8日 ③平成27年12月20日</p> <p>（実施場所）①日曜朝市 ②矢掛宿場まつり ③干し柿まつり 等</p> <p>（内 容）カフェ、キャンプイベント、リユース食器、矢掛ツアー、提案PR等</p>																													
<p>企画運営への小中高生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の小中高校へチラシを配布し、集まった60人が活動メンバーです。 ・矢掛高等学校で行われる月1回の会議において、地域課題の解決や町のブランドづくりをテーマに協議し、グループごとに活動します。 ・中高生は小学生の多彩なアイデアを実現できるようにかかわっています。 																													
<p>アンケート結果</p> <p>（小中高生の意識の変容）</p> <p>事後の結果は低下する傾向にありましたが、地域への愛着心はもともと高い傾向にあることが分かりました。</p> <table border="1" data-bbox="233 1111 1302 1339"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th>n=25</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域への愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td></td> <td>4.9</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td></td> <td>4.8</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自己肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td></td> <td>3.4</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td></td> <td>4.1</td> <td>3.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>（記述より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小中学生の意見も聞くことができ、自分では思いつかないようなアイデアを知ることができた。」「様々な年代と話をすることで、たくさんの意見が出た。」と異学年の交流のよさを感じていました。 ・「話し合いなどで、地域をより良いものにしようと頑張った。」「地域の人とふれ合うことができてよかった。」「地域の人についてよく考えることができた。」と地域への関心が高まりました。 					n=25	事前	事後	地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか		4.9	4.4	2	自分の地域はいい地域だと思いますか		4.8	4.2	自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか		3.4	3.0	4	あなたには自分らしさがあると思いますか		4.1	3.4
			n=25	事前	事後																								
地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか		4.9	4.4																								
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか		4.8	4.2																								
自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか		3.4	3.0																								
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか		4.1	3.4																								
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の方から感謝の言葉をもらうことで、地域での居場所や存在感を感じています。 ○小学生、中学生、高校生と幅広い年代と一緒に活動することにより地域での縦のつながりが強化されます。 ○子ども連合という団体として活動することにより、地域での活動を担保することができ、場合によっては他団体と連携協力した活動も実施しています。 ●担当者は地域の活性化のためには、これからも子どもの参画が必要と考えています。 																													

○成果 ●課題

幼児から高校生・若者まで幅広い縦のつながり

やかげ小中高子ども連合（YKG60）（子どもが主体の地域活動）

美しい山と川に恵まれた矢掛町は、山陽道の宿場町として栄えた歴史があります。岡山県南西部に位置し、人口約15,000人の町です。平成の大合併で合併することなく、観光と産業の活性化による賑わいの町づくりを進めています。やかげ小中高子ども連合は、平成25年9月に開催された「第36回全国町並みゼミ倉敷大会矢掛分科会」で小中高高校生が町並みの案内や歴史の紹介をきっかけに、小中高高校生の子どもが地域の中で自分たちがやりたいことを、自分たちで実行する団体として生まれました。

子どもが主体的に活動する自由な団体

やかげ小中高子ども連合では、月に1回行われる会議によって、事業が進んでいきます。事業は、矢掛の好きなところから、一人一つ、矢掛町でやりたいことを出し合って決めていきます。平成27年度は「カフェ」「キャンプイベント」「リユース食器」「矢掛ツアー」「提案PR」等のチームに分かれ、チームごとに実現に向けて事業をすすめています。話し合いでは、小学生が出した自由なアイデアを、中高生が実現に向けて計画や準備を進め、実行します。

大体はメンバーは固定されていますが、チームごとの行き来は自由となっています。そんな緩やかな関係になっているからこそ、子どもは自由にのびのびと活動できるのです。高校生が、中学生や小学生、また幼稚園児と当たり前で会議をしている、遊んでいる、そんな驚きの光景を見ることができます。そんな小中高高校生が縦につながることで、今までにない新しいことが生まれてきているのです。



次々と出る自由なアイデア

大人は活動を見守り、サポートに徹する

会議では遊ぶ子もいれば、けんかが起こることもあります。しかし、そんなとき力を発揮するのはジュニアリーダーである中高生です。絶妙のタイミングで小学生をコントロールし意見を引き出しているのです。大人はそんな小中高高校生を最後まで信じ、見守っているのです。そんな安心感があるからこそ、子どもは大人に頼ることなく主体的に活動できるのです。

また、活動の中で得た貴重な体験、成長、変化をその時だけで終わらせるのではなく、学校の先生方にも、子どもの日常である学校生活の中に還元できるように活動の様子を伝えていきます。

YKG60：矢掛町60周年事業として、矢掛で育つ子どもが、自分の特技を発揮できる場所づくりを目指す「矢掛で育つ子どもの未来についてはなすカフェ」が開催され、やかげ小中高子ども連合と合流して「YKG60」が生まれました。

【事例】大規模校での取組

岡山市立竜操中学校		赤田町内夏祭り																																										
<p>概要</p> <p>様々な世代から地域を盛り上げるために毎年8月に行われる赤田地区の夏祭り (参加者) 赤田町民約2,000人 (内容) ビンゴ大会や手作りコーナー等のボランティアや吹奏楽部の演奏</p>																																												
<p>企画運営への中学生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜操中学校へ依頼し集まった、赤田地区を中心とする中学生ボランティア30人、プログラムに吹奏楽部員65人が参加しています。 ・当日はボランティアとして全体の放送係や遊びコーナーなどの子ども用イベントの運営、夜店の補助等の活動をします。吹奏楽部は、地域での発表の場として参加します。 ・中学生は地域の様々な世代とのかかわりを持つことができます。 																																												
<p>アンケート結果 (中学生の意識の変容)</p> <p>全ての項目について向上していますが、特にボランティアとしての参加した群の生徒の高まりが大きい傾向が見られます。</p> <table border="1" data-bbox="231 1144 1331 1420"> <thead> <tr> <th colspan="3" rowspan="2">n=ボランティア:30、吹奏楽部員:65</th> <th colspan="2">ボランティア</th> <th colspan="2">吹奏楽部員</th> </tr> <tr> <th>事前</th> <th>事後</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域への愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td>3.9</td> <td>4.4</td> <td>3.9</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td>4.2</td> <td>4.5</td> <td>4.1</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>自己肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td>2.8</td> <td>3.2</td> <td>3.0</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td>3.4</td> <td>4.2</td> <td>4.0</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭りを運営する側として地域の人とかかわる楽しさが分かった。」「地域の方と笑顔で接することの楽しさを学んだ。」と地域活動のよさに気づいています。 						n=ボランティア:30、吹奏楽部員:65			ボランティア		吹奏楽部員		事前	事後	事前	事後	地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	3.9	4.4	3.9	4.4		2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.2	4.5	4.1	4.4	自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	2.8	3.2	3.0	3.3		4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.4	4.2	4.0	4.3
n=ボランティア:30、吹奏楽部員:65			ボランティア		吹奏楽部員																																							
			事前	事後	事前	事後																																						
地域への愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	3.9	4.4	3.9	4.4																																						
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.2	4.5	4.1	4.4																																						
自己肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	2.8	3.2	3.0	3.3																																						
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.4	4.2	4.0	4.3																																						
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市部であっても、祭りという誰もが楽しめるイベントを地域ぐるみで行うことで地域の絆づくりができています。 ○大規模中学校だが、地域の行事にかかわることで地域での活躍の場ができています。 ○30年以上続く地域の伝統行事で、子どもの頃参加した大人が運営委員として再び参加をしています。 																																												

○成果 ●課題

地域の絆づくりのために

岡山市立竜操中学校（赤田町内夏祭り）

竜操中学校は岡山市中心部に近い岡山市中区赤田地区に位置しています。地域の都市化による急激な人口増加に伴い、昭和46年に岡山市立旭東中学校より分離新設された中学校です。昭和55年度には生徒数1,500人を数え、平成27年度は学級数33、生徒数1,003人と減少していますが、岡山県内でも有数の大規模校です。

地域総出で祭りの開催

赤田夏祭りは平成27年度で31回目を迎え、地区にとっては伝統の行事となっています。この夏祭りは実行委員会形式で行われ、38人の実行委員の他に、班長や組長、保護者会役員、各団体長と**町内の団体の多く**がかかわって祭りを作り上げています。当日は子どもビンゴ大会やぬりえ、手作りコーナー、バザーなどのイベントの開催と焼き鳥やフランクフルト、焼きそばなどの夜店が出店されます。

中学生の活躍を地域にアピールする場として

開会セレモニーとして吹奏楽部の演奏が行われます。吹奏楽部は様々な機会演奏することが多いようですが、やはり知り合いの多くいる地元での演奏には気持ちが入り、部員は伸び伸びと演奏しています。また、多くの地域の方は近所の知っている子の堂々と演奏する姿に感動し、惜しみない拍手を送っています。

中学生は吹奏楽部の演奏の他に、当日の祭りの運営にも大きくかかわっています。本部でのアナウンスも大きな仕事の一つです。2名の中学生が全体の進行や迷子のアナウンスなどできぱきと行っています。この中学生は放送部員で、校内ではなく地域でこのような役割を与えられることに対して、非常に貴重な体験と感じるとともに、自分たちの活動が**地域に貢献できることに対して喜び**を感じています。その他にも、ぬりえや手作りコーナーなどで幼児や小学生の相手をしている生徒、夜店の商品販売をしている生徒、それぞれの持ち場で責任を持って行動しています。



放送部員が地域で活躍

中学生が活躍するための工夫

当日は約2,000人の参加者という賑わいでしたが、中学生は**実行委員と同じ帽子、ネームプレート**をつけることによってどこにいてもすぐに分かるように工夫されています。この統一により意識も統一され、運営側の自覚とともに行動にけじめをつけさせています。服装の乱れなどに対して、実行委員の大人は毅然とした態度で注意をしています。地域の方に注意されることの少ない現代の子どもにとって、このような経験も必要です。

夏祭り後、**実行委員会より感謝状**が一人一人に対して贈られます。この感謝状を学校でみんなのいる前できちんと渡すことによって、感謝の気持ちを伝えることはもちろんのこと、地域での活動の大切さを伝えています。

【事例】大規模校での取組

岡山県立倉敷南高等学校		倉敷町衆プロジェクト																								
<p>概 要</p> <p>倉敷「町衆」の精神を引き継ぎ、市民の一員として自覚を持った生徒の育成を目的に行われる「倉敷」をテーマとしたさまざまな活動 (参加者) NPO法人、地元経済界有志による町衆連 (内容) 1年生は地域インタビューやポスターセッション、2年生は地域研究のステージ発表、3年生はディベート選手権</p>																										
<p>企画運営と高校生のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマが決まると、多くのグループが自主的に現地に出向いて、事業主や観光客等にアンケートやインタビューを実施します。 ディベート選手権の論題の決定にあたっては、倉敷商工会議所副会頭等の話を参考に、「倉敷」の課題について3年生が議論します。 地域インタビューでは、働く大人の話をも直接聞くことにより、倉敷の課題や問題がより身近になり、「自分事」として解決策を考え、提言することができます。 																										
<p>アンケート結果</p> <p>(高校生の意識の変容)</p> <p>3つの質問項目について、多少向上している傾向が見られます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>n=25</th> <th>事前</th> <th>事後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域への 愛着心</td> <td>1</td> <td>自分の住んでいる地域は好きですか</td> <td>4.1</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自分の地域はいい地域だと思いますか</td> <td>4.0</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自己 肯定感</td> <td>3</td> <td>あなたは自分のことが好きですか</td> <td>3.1</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>あなたには自分らしさがあると思いますか</td> <td>3.8</td> <td>3.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域について理解でき、好きになった。」「将来に向けての明確な目標が見つかった」と地域への関心や将来への見通しが持っています。 						n=25	事前	事後	地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.1	4.3	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.0	4.2	自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.1	3.2	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.8	3.8
		n=25	事前	事後																						
地域への 愛着心	1	自分の住んでいる地域は好きですか	4.1	4.3																						
	2	自分の地域はいい地域だと思いますか	4.0	4.2																						
自己 肯定感	3	あなたは自分のことが好きですか	3.1	3.2																						
	4	あなたには自分らしさがあると思いますか	3.8	3.8																						
<p>事業の成果と今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会貢献」への思いを強くし、そのためには「学ぶ」ことが大切であるという「志」につながります。 ○地域課題の解決と自分のキャリアを結びつけ、「自分事」として活動にとりくむことで、主体的な学習活動ができています。 ○学校と地域の信頼関係を作ることによって、地域が真剣に高校生にかかわり、本物体験をすることができています。 ●取組や成果発表が地元中学生や地域住民に十分伝わっていないので、広報活動の充実が必要です。 																										

○成果 ●課題

参考：平成26年3月 倉敷「町衆」精神を育む事業報告書

キャリア教育につながる地域活動

岡山県立倉敷南高等学校（倉敷町衆プロジェクト）

県立倉敷南高等学校は倉敷駅の南方に位置し、生徒数約960人の普通科高校です。教育課程（カリキュラム）に大学進学を重視した「単位制」の仕組みを取り入れ、国公立大学を中心とした入試科目へ対応できる体制になっています。「自律・友愛・進取」の精神を実践し、国際化する社会に貢献・活躍できる人材の育成を教育目標に、キャリア教育の充実に力を入れています。

倉敷町衆プロジェクトによる地域連携

倉敷南高等学校では、一人一人が自分の生き方を考え、進路決定するための資質や意欲、志を育成することを目指し、郷土倉敷の「町衆」精神や文化に触れ、地域と連携しながら「我が町倉敷」をテーマとしたさまざまな活動を「倉敷町衆プロジェクト」として実施しています。

1年生は、町衆連から仕事内容や進学についての会話をする「ラーニングカフェ」や市内の企業や施設を見学して、町衆連から仕事内容についての話を聞く「フィールドワーク」などを実施し、1年生のまとめとして「ポスターセッション」を行います。

そして2年生は、学校設定科目「キャリアⅠ」において、生徒がそれぞれ興味のある分野を選択し、グループで研究テーマを決め、調査・分析を行う「課題研究」や校外の関係機関・事業所を訪問し、実社会で働く方々から、その仕事内容や職場の施設について説明を聞く「事業所訪問」などを実施し、ポスターセッションやコンテスト等への応募等を行います。

まとめの学年である3年生は、町衆連から地域の現状や課題についての話を参考に論題を決定し、鞆岡祭で「デベート選手権」を行います。

これらの3年間の計画的な地域との活動は、**地域社会の問題を発見、解決しようとする意識**を持ち、それを実現できる人材を育成することを目的としています。



NPO法人倉敷町家トラストでのフィールドワーク

地域での活動をキャリア教育につなげるために

倉敷南高等学校では、教育課題の一つである学びの動機の希薄化に対して、「社会にどう役立ちたいのか→そのためにはどういう職業に就きたいのか→そのためにはどういう進路を選べばいいのか→そのためには今をどう過ごすのか」という「**学びの志**」作りを「倉敷町衆プロジェクト」をとおして行っています。生徒の地域での体験的な活動は、生徒の学習意欲の向上、進路やキャリアについて「自分事」としてとらえる意識や「社会の役に立ちたい」という意欲の形成に役に立っています。

しかし、生徒がただ地域に出ればよいというのではなく、学校は事前の打ち合わせをしっかり行い、**学校の目的を伝える**ことが大切になります。そのためには、日頃から地域とのつきあいを大切にし、**人脈や信頼関係を作り**、何でも言える学校と地域との関係になっておくことが必要になってきます。そうすることによって生徒を受け入れる地域も、学校の要望に応えられるよう真剣に生徒に向き合ってくれます。このような学校では経験できない地域での体験が、倉敷南高等学校のキャリア教育の大きな特徴になっています。

IV 研究をとおして

地域の中で輝く中高生の出番づくり～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～を研究課題に調査研究を進めてきました。

調査の中で、中高生が地域での出番を与えられ、自分に与えられた役割の責任を果たせるよう自分なりに考え、一生懸命活動することで、生き活きとした輝く姿を幾度となく見ることができました。一方、周りの大人も、そんな中高生の活動をしっかり賞賛し、中高生から活力をもらい、中高生と同じように生き活きと輝いていました。

このような地域活動をした中高生が、地域への恩返しや自分が学んだことを地域に還元するために、地元就職したり、進学のため地元を離れた中高生が若者になり再び地元に戻ってきたりするのは、地域への愛着心が育まれているからこそです。

また、地域の大人に期待され、賞賛されることによって、自分の存在や役割を肯定的に捉え、自己肯定感が向上する傾向にあることもアンケート結果より分かります。つまり、中高生の地域への愛着心・自己肯定感を向上させるためには、地域の中で中高生の出番づくりを進めていくことが有効な方策であるといえます。

調査したそれぞれの事例で、地域への愛着心や自己肯定感の向上のために中高生に対しての配慮や工夫がありました。

- 陶山公民館では、企画の会議で、話し合いの時間を大切にするなど、自分の考えを表現する機会を設けています。また、祭り当日の閉会式で、舞台上上がり、賞賛するとともに地域へ紹介しています。
- 上南公民館では、それぞれの講座実施後、振り返りカードにできたことやできなかったことを記入することで、自分の中に起こった変化や成長を実感できるように配慮されています。また、前回までの反省を生かしながら、年間を通して講座の企画運営がされています。
- 矢掛高等学校では、活動がカリキュラムに位置づけられ、継続的に行うことで、地域とのつながりが深くなり、地域に必要とされていることが高校生に実感できるように配慮されています。
- 高陽中学校では、校区の小学校と連携して、身近な先輩からアドバイスする出前講座を実施することにより地域での活躍の場が確保されています。また、立候補により選出された推進委員が、活動内容についてしっかり話し合うことで主体的に活動ができています。
- 粟井春日歌舞伎保存会では、小学6年生児童全員が参加できるように、演目や指導の工夫をしています。また、小学生の頃に歌舞伎を経験した若者が出演できるよう積極的に声かけをし、世代間の循環を心がけています。

- やかげ小中高子ども連合（YKG60）では、地域の課題を解決するために子どもが主体となって様々な活動ができるように、大人は子どもを最後まで信じ、大人から先に手を出さない等、活動の見守りやサポートに徹しています。
- 竜操中学校のような都市部の大規模校でも、祭りという誰もが楽しめるイベントで中学生が活躍する場面を意図的に作ることで、地域のことを知り、地域との絆を実感できるように配慮されています。
- 倉敷南高校のような大規模校でも、地域課題の解決という活動をキャリア教育につなげ、活動を「自分事」として考えることで、社会貢献意識の醸成や「学びの志」の育成が図られています。

紹介した取組においては、地域の大人が中高生の持つ能力や可能性に触れることで、中高生に対する意識が、地域から「支援される対象」から、地域とともに創りあげる「パートナー」に変容しています。今の地域を持続可能なものにするためには、この大人の意識の変容が必要であると考えますが、このような認識を持っている大人は少ないのが現状です。今後は、中高生とともに地域を創りあげていく「パートナー」という意識を持つことが大切になってきます。

そして、地域の宝である子どもの成長を地域全体で支え、意図的、計画的、そして積極的な取組を行うことは、成長した後に地域で活躍する人材育成にもなります。また、中高生と地域が双方向にかかわっている姿こそ、地方創生で求められている地域が活性化している姿だと考えられます。

V 主体別の提言

事例研究をとおして、地域での中高生の出番づくりは、中高生にとっても、地域にとってもお互いに有益な取組であることがわかりました。事例のような先進的な取組を県下に広めるために、それぞれの関係者に向けて取組推進の一方策を提言します。

1 公民館関係者へ向けて

- ・小学生の頃から公民館講座等に参加するなど、公民館と子どもの関係を作ることで、公民館が中高生になって身近な場所になっていることが大切です。
- ・公民館で、中高生が自ら企画運営する講座や事業を企画実施し、地域から活動を賞賛される場を意図的に設定することによって、中高生の自己肯定感や地域への愛着心の向上が図られます。
- ・公民館は地域づくりの拠点施設として、中高生の多様な活動を展開するためにも、部活動や学校行事との調整等、学校や地域の諸団体と一層連携・協働していくことが大切になります。

2 学校関係者へ向けて

- ・学校教職員は、まず地域にどのような人的、物的資源があるのかを知る必要があります。そして、各校に配置されている地域連携担当教職員を中心に、地域の中核的な人材とつながることで、活動の場を地域に創出することができます。地域連携担当教職員には、社会教育主事等の専門的知識を持った人材を充てることが有効です。
- ・地域活動等をカリキュラムに位置づけ、年間指導計画に反映し、地域と組織的かつ継続的に連携する必要があります。
- ・カリキュラム外の土曜日や放課後の活動として、中高生が地域活動に参加するために、地域の人材や団体、社会教育施設等と連携・協働することが大切になります。
- ・現在でも、高校生の社会貢献活動等、地域と連携した取組が数多く行われています。さらに発展させるために、キャリア教育として地域との協働による地域課題の解決等に取り組むことが望まれます。

3 地域住民組織・NPO団体等へ向けて

- ・自治会や青年団、子ども会等の従来からある組織や団体においても、既存の活動の中に中高生の参画の場を設定することで、活動の活性化を図ることができます。
- ・NPO団体等においては、各団体が持つ専門性やネットワークを生かし、団体が主体となり地域活性化の取組など、中高生が地域で活躍する場を創出することができます。
- ・学校と連携し、地域課題の解決等、学校で取り組まれているキャリア教育や地域貢献活動とつながることができます。

4 行政へ向けて

- ・地域の伝統文化を次の世代に受け継ぐということは非常に大切な課題で、意図的に中高生の活躍の場を作るなど、地域づくりの一つの手法として行政も支援をしていくことが必要です。
- ・県下で中高生の地域での活躍の場は創出されつつありますが、地域によってばらつきがあるのが現状です。具体的な活動モデルや最新情報等を地域住民や社会教育関係者に示すことが望まれます。
- ・中高生の地域での活動事例が少ない場合は、行政が主体として、社会教育主事等が中心となり、公民館、地域の諸団体、学校などと連携して、新しい活躍の場を地域に創出することも考えられます。
- ・中高生の社会参画の取組を社会教育だけで行うのではなく、首長部局と十分連携を図りながら、総合的に推進していくことが必要です。

おわりに

平成27年12月の中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と推進方策について」において、「支援から連携・協働へ」「個別の活動から総合化・ネットワーク化」という大きな方向性が示されました。その中で、地域全体で子どもの成長を支えるためには、より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、子どもに対して、どのような資質を育むのかという目標を共有しながら「緩やかなネットワーク」を形成することが求められています。そのために、市町村に配置されている社会教育主事が、各活動の地域コーディネーターや、地域全体を把握する統括的なコーディネーターと連携を図ったり、地域との連携を担当する教職員を学校に設置し、社会教育主事有資格者をそれに充てたり等、コーディネート機能の強化がポイントとして示されています。

本県では、平成23年度から、学校支援地域本部、放課後子ども教室、家庭教育支援等の地域の様々な住民や団体等と連携・協働し、地域ぐるみで子どもを健やかに育むとともに、地域社会の教育力の向上を図ることを目的に「おかやま子ども応援事業」を実施しています。さらには、活動の一層の推進のために、平成24年度から、公立学校に地域との連携の推進を担当する地域連携担当を配置し、学校と地域の連携を一体的・総合的に取り組んでおり、今回の答申に示された内容が具現化された取組を推進しているところです。

これまでの取組により、地域から子どもへの教育支援体制は整いつつありますが、中高生への学習支援等は難しく、地域の方とのかかわりが少ない現状から、本研究では「地域の中で輝く中高生の出番づくり」をテーマに調査研究を行いました。研究をとおして、地域の中に中高生の出番をつくることは、地域への愛着心や自己肯定感の向上につながり、地域や若者が抱えている問題の解決の一助になることが分かりました。

現在県下において、地域課題を克服し、持続可能な地域になるよう様々な取組がなされています。その取組の一つとして、地域の中に中高生の出番をつくることは、大人の側から見れば、中高生との協働の場をつくることになり、地域を一緒に創りあげていくという「パートナー」としての意識が生まれてきます。この双方向のかかわりの中に学びがあり、地域も活性化されていくと考えられます。この学びをとおした地域づくりが大切な視点になります。そして、中高生の地域社会への参画や提案は、各地域で行われている地方創生の取組そのものであり、社会へ主体的にかかわっていくという主権者教育にもつながるものと考えます。

それぞれの主体におかれましては、本提言の趣旨を御理解・御周知いただくとともに、それぞれの活動に生かしていただけることを望みます。地域の中で輝く中高生の出番づくりを一緒に取り組んでまいりましょう。

地域における中高生の出番・役割のある事業・活動(例)

【公民館】

No.	市町村	事業・活動名	実施主体	開催時期	事業・活動内容	中高生の人数		中高生の役割
						中学生	高校生	
1	笠岡市	真鍋・学ぼろ・マナペラー	真鍋島公民館	年間6回	盆踊り、真鍋島88カ所巡り等、島に伝わる行事で文化継承を図る。	6		小学生や幼児のサポート役、先導役として活動。
2	笠岡市	陶山地区ふれあいまちづくり納涼祭	陶山公民館	平成26年7月21日～8月3日	陶山地区をあげての一大イベントである納涼祭。	21	2	担当や分担を中高生が決める。中2は運営全般と録音、アナウンス。中3は売店の仕入れとレイアウト、収支計算。高校生は総司会及び撮影。
3	笠岡市	土曜クラブ「大島の傘踊り」	大島公民館	平成26年7月1日～9月30日	大島の傘踊り継承と地域文化を学ぶ。	1		大島の傘踊りを次世代へ伝承し地域を活性化。
4	笠岡市	白石踊伝承活動	白石公民館・白石誦会と共催	年6回	地域に伝わる白石踊の伝承活動。盆踊りやツアーで発表。	8	5	幼稚園から取り組んでおり、高校生は中学生に、中学生は小学生に指導する事で自信をつけている。
5	瀬戸内市	こうこうネットワーク事業	中央公民館と高校	年8回	公民館で自主活動を行っている団体の活動を高2が受講し、世代間交流、地域とのつながりを深める。		105	邑久高校の『色友タイム』手話サークル、大正琴等の地域の団体に教わる。最終日に校内で発表会を行う。
6	岡山市	子どもチャレンジくらぶ 地域もの知り探検	興除公民館	平成26年10月4日、11月1日、11月8日	地域の住民、自然、歴史に触れ地域の良さを知る。	18	1	各チェックポイントでゲームをしたり地域に関するクイズを出し小学生と交流。
7	岡山市	KNDウィンドアンサンブル	光南台公民館・光南台中学校	不定期の土日曜	光南台中吹奏楽部と地域の大人で構成された吹奏楽団。老人福祉施設等での演奏活動。	19	2	出演する行事の内容を話し合せて決める。プログラム作成、進行役等。練習を通じて中学生と大人が交流、高齢化・過疎化が進んだ地域の活性化が目的。
8	岡山市	わがまち高松E(え)なS(すげ)なD(で)れ(れ)な発表会	高松公民館	平成26年12月14日	子どもたちの視点でまとめた地域学習の成果を発表し世代間交流。	14	9	地域学習の発表と意見交換。
9	岡山市	みんなあつまれ!	上南公民館	年間	小学生がイベントや創作活動を通し異年齢交流する体験型講座。	7		企画会議に参加、アイデアを出し合い、講座の準備。当日は受付、小学生のサポート等。
10	岡山市	高校生に教えてもらう料理教室	岡輝公民館	平成26年7月22日～9月27日	地域の小中学生が朝ご飯やスイーツの作り方を学ぶ料理教室。		32	教える献立を考えレシピを作り、教え方を考え、指導する。
11	岡山市	夏休みフリー塾	岡南公民館	平成26年7月24日～8月21日 全10回	小学生対象に様々な活動を実施。	22	13	料理教室や工作の運営補助。「公民館で過ごそう」ではゲームの企画、実施。
12	岡山市	わくわく親子ふれあい理科教室	藤田公民館	年間	子ども達が藤田の自然環境を知り、維持する活動。	23	5	資料作成、小学生に説明、星空クイズ等。参加者の小学生が中高大生になっても関わっている。

【中学校】

No.	市町村	事業・活動名	実施主体	開催時期	事業・活動内容	中高生の人数		中高生の役割
						中学生	高校生	
13	倉敷市	三世代交流事業	倉敷市立下津井中学校	平成26年10月10日	地域の高齢者・小学生・大人の三世代のスポーツ。	35		前日の会場準備、開閉会式の司会進行役、準備運動の師範役、競技補助員等。
14	赤磐市	携帯持込追放推進委員会	赤磐市立高陽中学校	平成26年12月	生徒主導による、校内に携帯スマホを持ち込まない活動	5		地域の小学校に Outreach、小学生にスマホの危険性と正しい使い方を伝える学習会の企画、運営。
15	岡山市	地域再発見 福田学区スタンプラリー 運営	岡山市立福田中学校	平成26年7月26日	小中学生がグループで学区内の史跡をめぐる地域イベント。	30		開会式の運営、コースの案内・見守り、史跡でのチェック、スタート・ゴールの案内、参加者の受付。
16	岡山市	地域行事へのボランティア参加	岡山市立竜操中学校	平成26年7月23日～11月16日	町内会の夏祭りや校区の体育大会の運営、吹奏楽演奏。	208		祭りでは放送係、ブース運営。体育大会では準備、放送等の各係、吹奏楽部の演奏。

【県立高校】『社会貢献活動推進事業 事例集』(県教育庁高校教育課)より

No.	活動名	県立高校名	主な出番・役割
17	地元密着ボランティア活動	和気関谷高等学校	親子で川遊びをする「水辺の楽校」のボランティアスタッフ・関谷学校ボランティアガイド
18	日々の学習を活かした社会貢献活動	倉敷中央高等学校	各専門科の学習内容を活かした活動(家政科で車いすカバーを作成、老人ホームで交流等)
19	やかけ学	矢掛高等学校	町の施設で活動(老人福祉センターでレクリエーション・農業体験施設で収穫補助等)

【市町村】

No.	市町村	事業・活動名	実施主体	開催時期	事業・活動内容	中高生の人数		中高生の役割
						中学生	高校生	
20	倉敷市	子どもミーティング	倉敷市	年間数回	ネット・スマホの適切な使い方を中学生が考える。	48		市内中学代表がネット依存等の問題点と対処法を議論。意見を持ち帰り具体策検討、実施。報告会開催。
21	和気町	和気町子ども塾	土曜日教育支援事業	年間10回程度	町内の小学生対象。ふるさと料理教室等内容を夏休み1回程度実施。	30		小学生のサポート役として活動を推進。防災キャンプは29名の高校生が参加。
22	井原市	井原市子ども・若者育成支援 『夢源塾』	井原市教育委員会生涯学習課	年間6回	「自分づくり」「仲間づくり」を支える学びと集いの場の提供。	15		イベントやボランティア活動への参画を通して地域社会に主体的に関わる。
23	笠岡市	放課後児童クラブに通う児童と一緒に遊ぶ	学童保育	毎月第1・3・5木曜日	高校のボランティア部生徒が放課後児童クラブに通う児童と一緒に遊ぶ。	3		ボランティア部(笠岡市高校VYS)の高校生が、放課後に児童クラブへ行き屋内外で児童と遊ぶ。
24	笠岡市	小学生のための英語教室「ハッピーチルドレン」	土曜日教育支援事業	年間20回	外国人や海外居住経験者を講師に、ゲーム等を交え英語を指導する。	延べ29		講師の補佐役。子どもが楽しめる雰囲気作り。英語の紙芝居を作成し、演じる。
25	笠岡市	青少年のための科学の祭典2014笠岡大会	社会教育団体関連	平成26年7月21日	不思議体験やものづくりを通し科学現象への興味を育てる。	102	54	中高生が地域のひとともに責任をもって30のブース設営。実験やものづくり等を子どもに教える役割。
26	吉備中央町	ヤングボランティア事業	吉備中央町教育委員会	年間	地域の行事(平成26年度は9事業でボランティア募集)。	39		小学生を対象にした体験活動のサポート。町主催イベントのサポート(受付、ゴミ集め)。
27	岡山市	岡山市子ども会ジュニアリーダーズクラブ「ボバイズ」	社会教育団体関連	年間	子ども会行事に派遣(年20件)、研修会(年3回)、自主的活動。	74	27	会長・会計など役割を決め自主的にクラブ運営。ジュニアリーダー、岡山市が活動を支援。

【NPO等】

No.	事業・活動名	NPO等名	中高生の役割
28	カフェ、矢掛ツアー、ゴミ問題等	やかけ小中高子ども連合	矢掛小・中・高の子どもと地域の人で、行事ごとに集まり、町の課題や今後について話し合う。
29	岡山高校生会議	岡山高校生会議	地域で活躍する人と接し、岡山をよくするために何をすべきか高校生が話し合う会の企画、運営。

参 考

提言の概要

岡山県社会教育委員の会議 審議過程

岡山県社会教育委員の会議 委員名簿

「地域の中で輝く中高生の出番づくり」～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～
 (岡山県社会教育委員の会議 提言の概要)

平成28年3月

子どもの健やかな成長には、地域から子ども(学校)への支援に加え、子ども(学校)から地域へ働きかける双方向の取組も大切であると考え、そこで、子どもが地域での役割や出番を持ち活躍することで、地域への愛着心や自己肯定感が高まり、本県の地域社会や教育の課題解決の一助になると考え、研究課題を設定した。

I 地域社会や教育をめぐる現状と課題

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 地域社会の現状と課題
人口問題、地方創生</p> <p>3 本県の地域と子どものかかわり
教育支援体制の整備、中学生の地域行事への参加</p> | <p>2 社会教育の現状と課題
教育県岡山の復活、地域社会の教育力の低下</p> <p>4 日本の若者の自己認識
低い自己肯定感</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|

II 本研究の視点

中高生の地域での活動が、地域への愛着心を高め、自己肯定感の向上を促すとともに、本県の地域社会や教育の課題解決にもつながると考え、中高生の地域での出番や役割づくりを進めるためのポイントや効果について、公民館、中・高等学校、市町村のNPO等団体にヒアリングや視察等を実施し、これらの担当者や中高生、地域の大人からの実際の声をもとに、活動の成果や課題等の事例分析を行った。

III 事例紹介・事例分析

本研究では、中高生の事業への参画が見られる8事例について、概要や中高生の担う役割について、深く調査した。

事 例	概 要
笠岡市陶山公民館 【ふれあいまちづくり納涼祭】	中高生が参画し、活力ある地域を作ることを目的として、毎年8月の第1土曜日に陶山小学校グラウンドで行われる納涼祭
岡山市立上南公民館 【体験型講座「みんなあつまれ」】	中学生の自主性、協調性、地域とかかわる力を育むこと等を目的として、夏休みから2月まで毎月行われている公民館の主催講座
県立矢掛高等学校 【やかげ学】	地域での体験活動をとおして、達成感や満足感を持たせ、主体的な進路選択に結びつけることを目的として、町の歴史や文化などを学んだ後、長期的に職場実習を行う学校独自の教科
赤磐市立高陽中学校 【小学校への出前講座】	生徒に役割と責任の自覚を持たせることを目的とした、携帯・スマホ持込追放推進委員会による、学区内の小学校への出前講座
粟井春日歌舞伎保存会 【粟井春日歌舞伎】	地元に伝わる文化継承を目的とした、地区の全6年生、帰郷青年層が出演する地下歌舞伎
やかげ小中高子ども連合(YKG60) 【子どもが主体の地域活動】	地域に誇りや自信を持って語れる子の育成等を目的とした、矢掛町内の小中高生による地域の課題の解決やブランドづくりの活動
岡山市立竜操中学校 【赤田町内夏祭り】	地域を盛り上げることを目的として、様々な世代が参加し、毎年8月に行われる岡山市赤田地区の夏祭り
県立倉敷南高等学校 【倉敷町衆プロジェクト】	倉敷「町衆」の精神を引き継ぎ、市民の一員として自覚を持った生徒の育成を目的とした「倉敷」をテーマとした活動

IV 研究をととして

事例研究を通して、様々な工夫により、中高生の地域への参画がスムーズに促され、中高生の態度や地域に対する心情に変容が見られたり、活動を支える大人にも意識の変化があることが分かった。

【事例から得られた活動の工夫等】

- ①話し合いの時間を大切し、自分の考えをしっかりと表現する機会を設定する。
- ②振り返りカード等で文章化する等、活動を振りかえる機会を設定し、自分の変化や成長を実感させる。
- ③対象となる子ども全員が参加できるように、演目や指導の工夫を行ったり、過去に経験した若者に再度、参加を促す等、世代間のつながりづくりを意識する。
- ④子どもが主体となって様々な活動ができるように、大人は見守りやサポートに徹する。
- ⑤誰もが楽しめる身近なイベントに中学生が活躍する場面を設定する。
- ⑥学校では、地域での活動を年間指導計画にはっきりと位置づけ、継続的に実施する。
- ⑦小中高校と縦に連携することで、身近な先輩として活躍できる機会を設定する。
- ⑧地域課題を考える活動を通して、課題を「自分に深くかかわる事」として意識させる。

【事例研究から分かったこと】

- ①地域の大人に期待され、賞賛されることによって、中高生は、自分の存在や役割を肯定的に捉え、自己肯定感が向上する。
- ②地域活動を経験した中高生は、地域への愛着心を持ち、地元就職したり、進学のため地元を離れた中高生が若者になり帰郷している。
- ③地域の大人にとっては、中高生の持つ能力や可能性に触れることで、中高生は「支援される者」という意識から、地域をともに創りあげる「パートナー」に変容している。
- ④子どもの成長を地域全体で支え、意図的、計画的、そして積極的な取組を行うことが、地域で活躍する人材育成につながる。

V 主体別の提言

1 公民館関係者へ向けて

- ・地域の子どもが小学生の頃から公民館との関係を作り、身近な場所にしておく。
- ・活動の中に、地域から賞賛される場を意図的に設定する。
- ・学校や地域の諸団体と一層連携・協働する。

2 学校関係者へ向けて

- ・地域の人的、物的資源を把握し、地域連携担当教職員を中心に地域の人材や団体、社会教育施設等と連携・協働する。
- ・地域連携担当教職員には、社会教育主事等の専門的知識を持った人材を充てるのが有効である。
- ・地域活動等をカリキュラムに位置づけ、年間指導計画に反映する。
- ・キャリア教育として地域との協働による地域課題の解決等に取り組む。

3 地域住民組織・NPO団体等へ向けて

- ・地域住民組織が実施する既存の活動の中に参画の場を設定する。
- ・各団体が持つ専門性やネットワークを生かし、団体が主体となって活動に取り組む。
- ・学校と連携し、地域課題の解決等、学校のキャリア教育や地域貢献活動と連携する。

4 行政へ向けて

- ・具体的な活動モデルや最新情報等を地域住民や社会教育関係者に示す。
- ・地域の伝統文化の継承に、活躍の場を作れるよう保存会等へ支援をする。
- ・活動がない場合は行政、社会教育主事等を核に、地域と連携して、新しい活躍の場を創出する。
- ・社会教育だけでなく、首長部局と十分連携を図りながら、総合的に推進する。

岡山県社会教育委員の会議 審議過程

1 平成26年度

(1) 全体会

年 月 日	審 議 内 容
平成26年 7月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度主要事業の概要について ・平成26年度研究課題の方向性と今後の予定について ・社会教育関係団体への支援の在り方について
平成27年 3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度主要事業の成果について ・平成27年度主要事業について ・調査研究について

(2) 専門部会

年 月 日	審 議 内 容
平成26年10月 2日	第1回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性・研究課題・研究内容について ・研究の進め方について
平成26年12月26日	第2回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・事例調査について ・研究の進め方について
平成27年 2月20日	第3回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・調査事例について ・研究の進め方について

2 平成27年度

(1) 全体会

年 月 日	審 議 内 容
平成27年 8月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県教育大綱案について ・社会教育における現状と課題及び今後の施策の方向性等について ・調査研究について
平成28年 3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言案について ・第2次岡山県教育振興基本計画について

(2) 専門部会

年 月 日	審 議 内 容
平成27年 6月12日	第1回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・提言骨子案等について ・ヒアリングと質疑応答 笠岡市陶山公民館【ふれあいまちづくり納涼祭】 岡山市立上南公民館【体験型講座「みんなあつまれ」】 美作市栗井春日歌舞伎保存会【栗井春日歌舞伎】
平成27年 7月30日	第2回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングと質疑応答 県立矢掛高等学校【やかげ学】 赤磐市立高陽中学校【小学校への出張講座】 やかげ小中高子ども連合(YKG60)【子どもが主体の地域活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・提言骨子案等について
平成27年12月17日	第3回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・提言案について
平成28年 1月21日	第4回専門部会審議 <ul style="list-style-type: none"> ・提言案について

平成26・27年度 岡山県社会教育委員の会議 委員名簿

【任期 平成26年7月1日～平成28年6月30日】

氏名	役職名	選出分野	全体会議	専門部会	備考
赤迫康代	NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事	NPO法人 (子育て支援)		副部会長	
飯田純子	美咲町立旭小学校学校支援地域本部 地域コーディネーター	ボランティア			
石川康晴	(株) ストライプインターナショナル 代表取締役社長	企業 (一般企業)			
井上和也	備前地区社会教育委員連絡協議会 理事	社会教育委員	副議長		
岡山一郎	(株) 山陽新聞社論説委員会 副主幹	企業 (報道関係)			
岡山万里	(財) 大原美術館 学芸員	社会教育施設 (美術館)			H27.9.30退任
加藤せい子	NPO法人吉備野工房ちみち 理事長	NPO法人 (若者の社会参画)			
熊谷慎之輔	岡山大学大学院教育学研究科 准教授	学識経験者		部会長	
田中靖子	岡山市立岡南公民館 社会教育主事	社会教育施設 (公民館)			
土屋隆士	岡山県PTA連合会 会長	社会教育関係団体 (PTA)			
延江典子	岡山県青年団協議会 会長	社会教育関係団体 (青年団)			
波多洋治	岡山県議会 議員	議会			
濱田栄夫	山陽学園大学 副学長	学識経験者	議長	オブザーバー	
日山敦司	(株) ベネッセコーポレーション 高校事業部情報企画課課長	企業 (教育関係)			
福島治子	岡山県中学校長会副会長	学校			H27.6.30退任
難波玲子	岡山県中学校長会代表	学校			H27.7.1就任

岡山県社会教育委員の会議

「地域の中で輝く中高生の出番づくり」
～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～
(提 言)

発 行 : 平成28年3月

事務局 : 岡山県教育庁生涯学習課

〒 700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

電話 086-226-7597

HP <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/149/>